

【新聞に投稿】

令和3年11月9日南日本新聞「若い目」掲載
小宝島小4年 東 佑弦

文化祭でよく見たら四・五年生は「小宝島未来化計画」を発表した。海列車や海中水族館など、三百年後を想像し、地域のよさを生かした未来の小宝島を考えた。

すべり台、竹ノ山アスレチック、小島博物館など、あったら楽しいと思うことを考えた。アスレチックが増えたら、子どもも遊具も、緑もふえて環境にも優しいと思っただ。でも計画を考えながら、想像した小宝島も、竹ノ山アスレチック、小島博物館、景色をさえぎるかもしれないし、博物館は生き物をつかまえることになる。

つまり何かを作ると、今まであったものがなくなるのだ。だから新しいものを作り、その上で前のものを残すには工夫がすごく必要になり、とても大切になる。小宝島未来化計画を通して、そのことを知ることができた。

小宝島未来化計画



十島村で学ぶ

【宝島で学ぶ】「児童生徒会副会長になって」
宝島中学1年 松下 真奈

山海留学生として宝島に来て2年目になった。私は、後期の児童生徒会改選のとき、児童生徒副会長に立候補した。その理由は大きく2つある。

1つ目は、よりよい宝島小・中学校にするためだ。私は、元気なあいさつができる学校になってもらいたいと思っている。そのための手伝いがしたいからだ。

2つ目は、自分の考えを積極的に述べられるようになりたいと思ったからだ。私は、今まで話し合い活動などで消極的で、発言することがほとんどできていなかったが、副会長になることで、自分の意見が積極的に述べられるようになりたいと思っている。

まだ、児童生徒会の副会長になったばかりなので、不安なことがたくさんあるが、自分なりに児童生徒会の会長と協力しながら、よりよい学校を目指して頑張りたい。



【宝島小・中学校からのメッセージ】
教諭 蓮子 葵

「離島には教育の原点があるよ。いい経験になる。」これは宝島への赴任が決まり、初めての離島暮らしと複式学級指導を不安に感じていた私に、前任校の校長先生がかけてくださった言葉です。その日からもうすぐ二年がたとうとしています。宝島のみなさんが温かく受け入れてくださっているおかげで充実した日々を過ごせています。

ここでは今までよりも、一人一人とじっくり密接に関わる時間を多くとることができます。子どもたちの「できた」「わかった」という嬉しそうな表情、「できるようにになりたい」という思いなどを見逃すことなく指導することができます。そして、その子にあった方法を考え、その子ができるようになるまでサポートすることができます。

また、保護者・里親・地域の方々と一緒に子どもたちを見守り育てていくことができます。さらに、豊かな自然から学ぶこともたくさんあり、生活と学習のつながりを感じることができます。

このように、一人一人の子どもと深く関わること、地域一体となって子どもを見ていくことを「教育の原点」と捉え教えてくださったのでは、と考えています。このような恵まれた環境で教育に携われることの幸せを感じながら、これからも、子どもたちをよく見つめ・想いに寄り添い、それぞれの良さを伸ばしていく指導をしていきたいです。



『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ
場所としては離れていますが、「十島は一つ」の心で、一緒に頑張っていきたいと思っています。また、今年こそは村教研で集まり、一緒に学べる機会があると嬉しいですね。

十島村教育委員会だより 令和4年1月号

さわやかトカラ情報

南北160km

「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771



写真:1月10日 新成人を祝う会

「十島村教育長に就任して」

十島村教育長 木戸 浩

今回、有村教育長の後を受け、教育長に就任しました「木戸 浩」です。

平成14年度から3年間社会教育主事として、十島村教育委員会で勤務しておりました。担当は社会教育の分野でしたので、学校教育以外がすべて守備範囲でした。今では村役場が行っている子育て支援も担当しておりましたので、保育士の方に随行し、それぞれの島で未就学児とその保護者に対する事業などを行っていました。現在の各島での子育て施設の充実が、非常に驚きと共に嬉しかったです。

その他、女性団体の会や高齢者の方々の事業、天然記念物に指定されているトカラ馬の育成状況の確認や、タモトユリ、野生牛、トカラヤギなども見て回り、育成・保存に努めていました。

文化財保護審議会を島で開催して、大学の先生や博物館、黎明館の先生方に実際に現状を見ていただきながら、熟識をしていただきました。約15年ほど前を振り返ってみますと、国庫補助事業を活用した「生涯まちづくりモデル支援事業」として、中之島天文台、中之島歴史民俗資料館、タチバナ遺跡、トカラ馬牧場など「トカラ文化ゾーンづくり」構想や文化財(野生牛や天然記念物等)の保護や種の保存等をこの予算で実施していく構想で進めました。その中で特に各島の伝統民俗芸能の収録・保存を行い、DVD化して各島に配布しました。また、鹿児島県教育委員会の「地域が育むかごしまの教育」県民週間の中で「トカラの学校を見に行こう」ということで、一人3,000円のモニター料を補助し、十島村の学校に行きたいと80人の希望者があり直接見に行ってくださいました。その参加者の中から、山海留学の希望者が出てきたり、教員採用試験に合格したら是非十島村を希望しますという声も寄せられたりしました。

全国にはその当時(平成の大合併前)、小さな村がたくさんあり、人口1,000人以下の村の教育長に呼びかけて「全国小さな村の教育サミット」という事業を実施しました。東京都の青ヶ島村や北海道の小さな村などを含め、18村の教育長に鹿児島まで来ていただき、小さな村の現状と課題などについて話し合い、村の活性化について話し合いました。非常に有意義な会合でした。その他にも、天文台と歴史民俗資料館のリニューアル事業、県立博物館のフェリーとしまを使った「移動博物館」、「ファミリー劇場」で来ていただいた野田郷島津太鼓が平島の太鼓の伝統にもなりました。「はばたけとしまっ子事業」では、1つの島に小・中学生を集め、カヌー体験やスキューバ体験など

の事業も行い交流を深めました。

さて、これからは学校教育では、『15の島立ち』に向けた学力はもちろん、精神力や自立する力の育成を目指します。そして、社会教育分野ではコロナの終息を願いながら、様々な文化活動や体験活動など、村民の方々の生きがいにつながるものを計画していきたいと思っています。子どもたちにとって、島を離れた後に気付くであろう島の良さを、自信と誇りをもって振り返ることができるように“ナンバーワンとオンリーワン”の融合を図りながら、将来を見通せる存在になってほしいと願っています。まずは各島・学校の現状をしっかりと自分の目で見て、実態を把握したうえで、様々な施策を講じて、実施していきたいと考えております。児童生徒はもちろんですが、村民の皆様のために、誠心誠意努力していきたいと思っておりますので、どうぞ御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

子供のうた

九月二十一日 南日本新聞掲載

くまさん起きて
走ろうよ
アリスさん起きて
しゃべろうよ
かめさん起きて
待ってるよ
みんな起きて
遊ぼうよ

中之島小学校五年
小原澤 扶海



子供のうた

九月十五日 南日本新聞掲載

ボゼまつり
たいこ どんどん
子どもは こわがり
えんえん
ボゼは あし音
どんどん
赤土をつける
きやあきやあ
ひめい
みんな わいわい
にぎやかだ

悪石島小学校一年
まつ下 そら



子供のうた

九月二十一日 南日本新聞掲載

わたしはひまわり
わたしはひまわり
土にうめられて 水をもらって
めをだした あっ、たいようだ
はがしげりもうすぐ花がさく
わたしの黄色い花がさく
土がかわいた
のどがかわいた
空がくもって雨がふった
わたしはひまわり
熱い日にさく 立派な花
熱い太陽に負けない
りっぱなりっぱな夏の花

小宝島小学校四年
岩下 明日香

